

彩の歳時記

平成二十一年 六月

あじさいの花が八重に咲くごとく 八つ代にをいませわが背子見つづ惚はむ

橘諸兄(たちばなのもろえ) 万葉集 七五五年

「あじさいの花が八重に咲くように、いついつまでも栄えてください。あなた様を見仰ぎつつお慕いました。」

あじさいの豊かな花のようにつぎつぎ色を変えて長く咲き誇るようにとの祝いの歌。

紫陽花は日本原産の花で学名「ガクアジサイ」シーボルトが愛した花として知られ、白・紫・淡紅など色が変わるところから「七変化」「八変化」「八仙花」また「手毬花」と呼ばれます。

紫陽花や藪を小庭の別座敷 芭蕉

「藪をそのまま小さな庭にしつらえた奥の離れの座敷に咲く紫陽花のひっそりとした風情が味わいを添えている」



六月の異称

水無月 「水月」と書き「みなづき」と読む。旧暦の七月にあたるため、焦月・長夏・常夏など。

六月の暦

一日 衣替え

五日 芒種(ぼうしゅ) 【二十四節気】 芒種 「稲や麦など穂が出る穀物」の種を蒔く時期

六日 お稽古の日 六歳の六月六日から始めると上達すると言われていることから。

十三日 入梅(にゅうばい)

十四日 父の日 【第三日曜日】

十九日 桜桃忌 十三日に入水自殺した作家・太宰治【1909～1948】の遺体が発見された日。



桜桃忌

忌日は晩年の作品『桜桃』に因む。この日は誕生日でもある。今年が生誕百年を迎え、人と作品にあらためてメディアの関心が高まっている。東京帝大仏文科中退。

生誕地、青森県五所川原市にある斜陽館は明治四十年、明治の大地主、津島源右衛門(太宰の父)が建設した入母屋作りで米蔵にまで日本三大美林のヒバを使う豪華な建物。重要文化財。

二十一日

コンドル忌 ロンドン出身の建築家、ジョサイア・コンドル【1852～1920】の忌日。



お雇い外国人として、東京駅を設計した辰野金吾【1854～1919】等、日本近代建築創世記の建築家を育成した。のち民間で建築設計事務所を開き、財界人らの邸宅を数多く設計、日本人の妻を持ち、日本画を学ぶなど日本趣味を愛した。東大構内に銅像、墓所は護国寺。現存の主な建物はニコライ堂、旧岩崎邸、三井倶楽部、島津家袖ヶ崎邸(現・清泉女子大学本館) 古河邸(旧古河庭園)など。

二十一日 夏至(げし) 【二十四節気】 夏に至る。北半球で最も日照時間が長い日。

三十日

夏越の祓 十二月と六月の晦日に行われる平安時代から続く行事。一年の半分が過ぎ、夏以降の疫病除けを祈願する。厄よけとし和菓子の水無月を食べる風習も。



「茅の輪くぐり」は素戔嗚尊(すさのうのみこと)に宿を供し難儀を救った蘇民将来(そみんしょうらい)が教えに従い腰に茅の輪を下げたところ、子孫代々まで災いなく栄えたことに因る。

六月の歌

あじさいいろの日々

ポール・モーリア 【1925～2006】オーケストラのナンバー。

当時フジテレビで放送されていた「小川宏ショー」【1965～1982】の

今月の歌として万里村ゆき子が作詞、1973年の来日公演を前に

ポール自身により編曲された。この曲を歌った高田恭子は1969年に

「みんな夢の中」でデビュー、新人賞を受賞。



六月の女はあじさいみたい
過ぎた春の日々をたどる心は七色
きらめく夏のための木綿のドレス
縫う手休め曇る窓に煙る街を見る
そうよあのときもこんな雨だった
レインコートのあの人は傘の波に消えたわ
六月の女はあじさいみたい
気を静めて午後のお茶を一人飲みましょう
フランス映画のポスターみたいな
激しく燃えるあんな恋をもう一度してみたい

・後略: